

ボッチャ競技の紹介

(日本ボッチャ協会ホームページより)

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。 ジャックボール（目標球）と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのカラーボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。 障害によりボールを投げるができなくても、勾配具（ランプ）を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。 競技は男女の区別なく BC1～BC4 のクラスに別れて行われ、個人戦と団体戦（2対2のペア戦と3対3のチーム戦）があります。

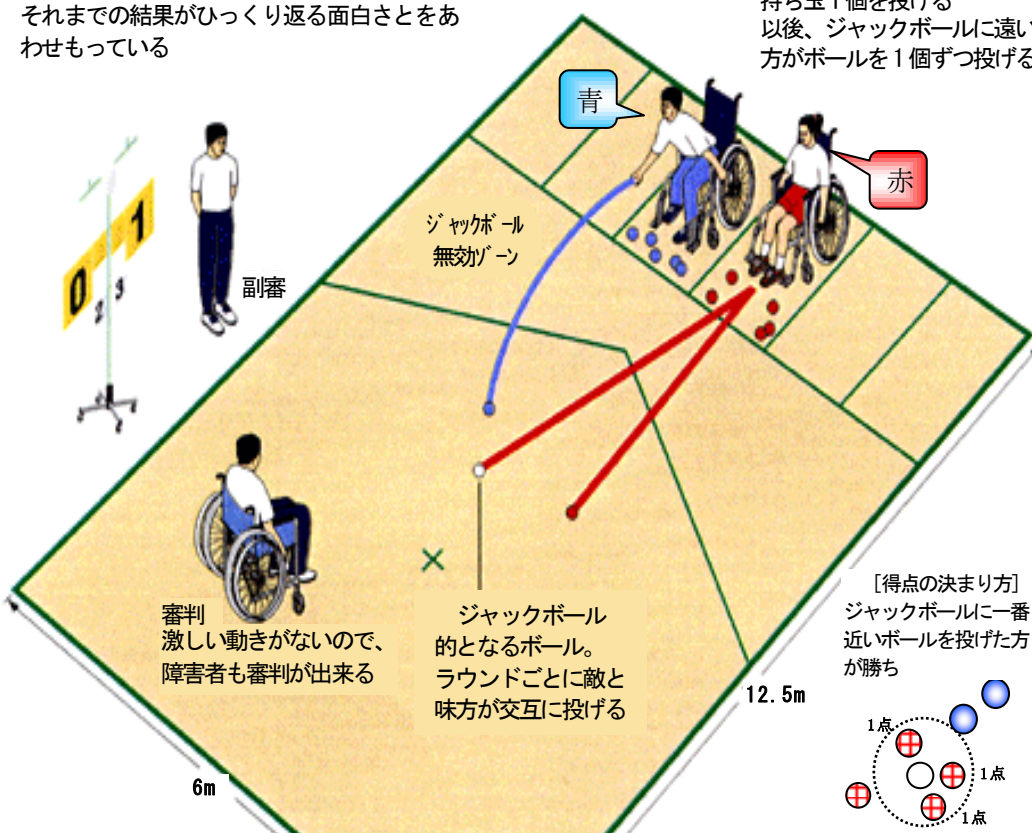
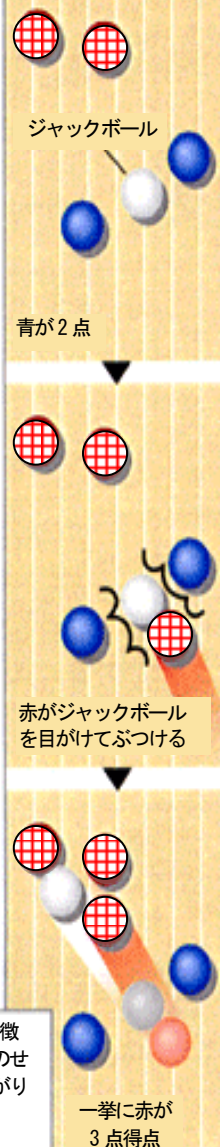
ボッチャは、どれだけ多くのボールを的(ジャックボール)に近づけるかを競う競技です

個人競技とペア、3人ずつのチーム対抗の三種類の種目があり、男女混合で行われる。パラリンピックでは重度の脳性まひ者を中心とした競技となっているが、障害を持つ・持たないの区別なく楽しめるわかりやすさと、作戦次第でそれまでの結果がひっくり返る面白さとを合わせもっている

個人競技の場合

【先攻：赤】
ジャックボールと持ち玉1個を投げる
【後攻：青】
持ち玉1個を投げる
以後、ジャックボールに遠い方がボールを1個ずつ投げる

ボッチャの逆転術



勾配具を使う場合

ボールを投げられない選手は、ランプと呼ばれる器具と介助者の助けのもとでボールを転がす

